おうてんいん・インフォメーション



6月－7月の予定

LECTURE&EVENT ※■は應典院主催行事です

6・7月も盛り沢山の應典院。今回は、主催・協力事業のほか應典院で開催されるいろんな催しも併せてご紹介します。どなたでも参加できます。

□〈健康〉をカンボジアの村に育てたい

シェア＝国際協力市民の会の地域保健担当スタッフで、カンボジア農村で母子保健の普及に努める功能（こうの）聡子さんを迎えるテーブルトーク。玄人並みの自慢のスライドを披露しながら、草の根の保健活動の報告を聞きます。

○6月27日（金）18:30～20:30
○300円
○アーユス関西　TEL 06-774-0113

□殺されるために生きるということ

新聞記者の原裕司さんは、被害者側・加害者側・法務省などさまざまな立場と考えの人々に会って、取材をされてきました。長年の取材を通して、死刑問題について感じたこと、考えることをお話しいただきます。

○6月28日（土）18:00～20:00
○1,000円
○死刑廃止フォーラムｉｎおおさか
TEL 06-364-5411 中道法律事務所気付

□芸術文化とこれからの地域社会

これからの芸術文化運動をどのようにとらえるべきか。ＮＰＯの役割は、また行政や地域とのかかわりは…。舞台芸術環境フォーラム代表で、歌舞伎・演劇評論家としても知られる衛紀生さんをゲストに、オープンセミナーを開催します。

○7月1日（火）13:00～15:00
○1,000円
○関西子ども文化協会　TEL 06-701-9292

□心の絆ースリランカと日本人ー

同じ仏教の国として親しみ深いスリランカ。スリランカ大好きな人たちが集まって開催するサーマランカ協会の例会です。今回のゲストは、浄土宗の僧侶であり、スリランカで寺院や幼稚園などを通じて交流してきた土佐舜成さんを迎えてのトークです。スリランカのティータイムもあります。

○7月12日（土）14:00～16:00
○無料
○サーマランカ協会　TEL 06-854-7434

■7月のトークサロン

毎月第3水曜に開催の好評「トークサロン」は、誰でも参加できるおしゃべりサロン。秋田住職が進行役で、世代や立場の異なる方々と親しく語りあいます。

○7月9日(水)
①14:00～16:00 ②19:00～21:00
○無料（要電話予約）

■應典院・法話と写経の会

秋田住職の法話と「般若心経」の写経を始めます。あなたのこころを癒す、仏教のひととき。静かに仏さまと語り合ってみませんか。筆（ペン）ご持参願います。

○7月19日（土）
①14:00～16:00 ②18:00～20:00
○無料（要電話予約）

□保母のための和太鼓講座

子どもが、先生がイキイキとするために、和太鼓の実践講座。楽しみながら、和太鼓の魅力を全身で感じながら学びます。

○7月24日(木)・25日(金)２日通
両日とも10:00～16:00
○11,000円（２日間で）
○太鼓センター　TEL 075-392-6975

■寺子屋トーク第2弾
京都大学教育学部教授 山崎高哉先生を迎えて

6月の寺子屋トークは、京都大学の山崎高哉さんを招いて、これからの地域と家庭教育の役割を考えるトーク「新・家族物語／地域から母子の明日を考える」をお贈りします。お母さんはもちろん、社会教育やボランティアに携わる方々にも最適の内容です。ぜひご来聴ください。

○6月23日（月）10:00～12:00
○1,000円（会員500円）

【ＮＥＷＳ／秋の應典院】

いま、秋の應典院のたのしい企画を計画中です。少しサワリをご紹介しましょう。

●9月28日から應典院・秋のアートフェス開催決定！應典院が劇場に変身して、演劇、コンサート、アート展など。
●秋の巡礼バスツアーを大蓮寺さんと共催で。10月19日、秋の大和路を法然上人の遺跡を訪ねます。当麻寺では精進料理もいただきます。
●仏教入門の授戒道場を11月22日～24日に開建。わたしの中の菩薩に出会う、魂の３日間。宿泊可。詳しい資料有り。
●12月29日（予定）の歳末、この一年を供養するわたしのための「自分感謝祭」。会員のみなさんもぜひ。
●また、應典院のボランティアの会「かるな」も間もなく、発会の予定です。

應典院寺町倶楽部設立総会 開催のお知らせ

下記の通り、應典院寺町倶楽部設立総会を開催します。会則案、役員人事などについて、決議いただきます。また、今後の活動についてもご意見をお聞きしたいと思います。寺町倶楽部初めての総会です。会員のみなさんのご出席をお願いします。

日時：７月18日(金)　午後６時から
場所：應典院
※約１時間で終了の予定です。

【編集後記】

とにかくサリュ発行前は事務局一同てんやわんや。素人ばかりの作業ですので、お見苦しい点もあるかと存じますが、どうぞお許しを。編集、デザイン、文章、漫画等々、こんなことが得意な会員のあなた、ぜひぜひ応援をお願いします！

【編集スタッフ】

金下玲子、池野亮、綾田直子

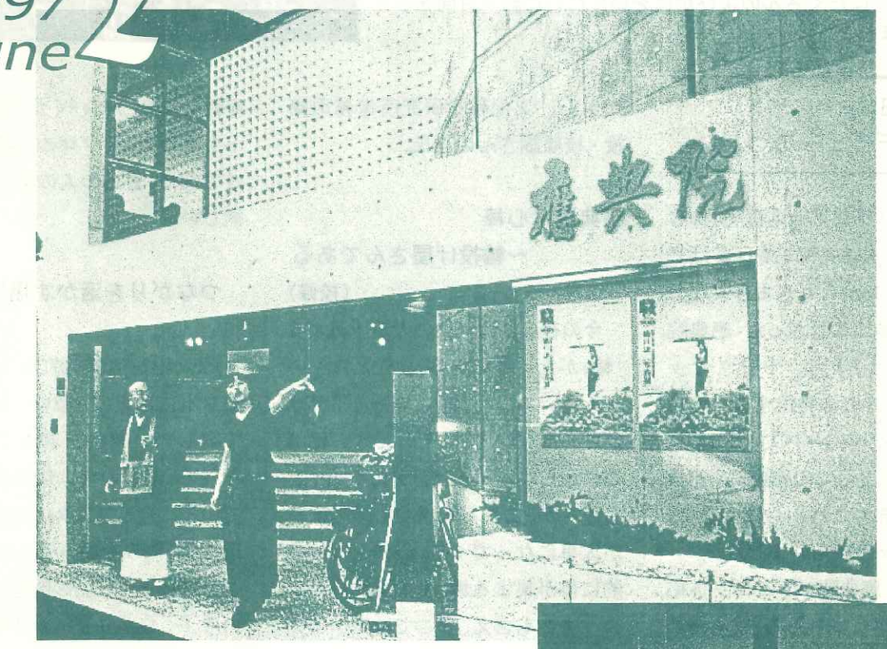
サリュ VOL.2　発行日 1997年6月18日(偶数月発行)
発行所／應典院寺町倶楽部　〒543 大阪市天王寺区下寺町1-1-27　TEL06-771-7641 FAX06-771-5943

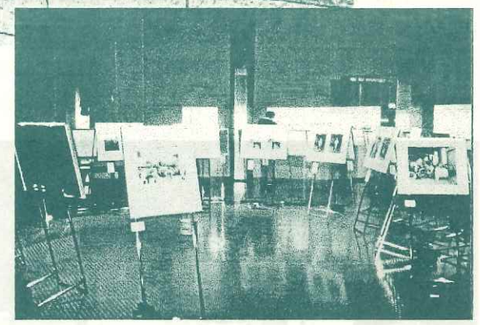
應典院寺町倶楽部のニューズレター

Salut

［サリュ］
フランス語で救いの意

vol.2
1997 june





話題のお寺・應典院がいよいよ落慶。去る5月3日の橋口譲二写真展「職 1991-1995 WORK」で幕開け、すっかりおしゃれなギャラリーに変身した應典院は、期間中1500人の人出でにぎわいました。

丸い本堂やうねった壁面など、空間をぜいたくに使った建築のすばらしさ、また、周辺の森と墓碑の風景など、一度足を踏み入れれば、そこはこれまでにない異界の域。なによりそこがお寺であることの感覚が、来場した人々のこころに何かをメッセージするようです。

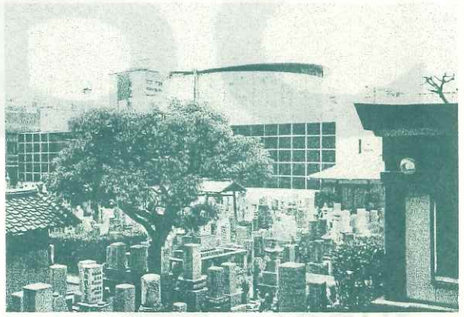
そのほかにも、トークサロンや春の講座もスタート、会員の会場利用も多く、いろいろな人たちの往来が、應典院の確かなリズムとなりつつあります。そしてみなさんの笑顔が何よりの彩り。應典院の呼吸が聞こえてきそうです。

人が集う、いのち、弾ける ── 。出会い、発見、感動。これからの應典院寺町倶楽部の活動にぜひあなたもご参加ください。

声と声が、動きはじめた…

'97年４月、應典院・寺町倶楽部スタート

「気づき・学び・遊び」をキーワードに、広く社会に開かれた寺院をめざす應典院と、そのサポート組織である、「應典院寺町倶楽部」が４月27日、いよいよ落慶および発会しました。27日から29日にかけては落慶式、「超・寺町からの発信ー宗教者のつどい」、「應典院デビューのつどい」などの記念行事が行われ、のべ800人の方々からお祝いいただきました。そして、５月３日から15日間にわたって開催されたオープニングイベント「橋口譲二写真展」とトークライブ。「職」を通して日本と日本人について考える橋口さんの作品と、モデルになった人々との語らいという、厚みのあるこのイベントにも1500人が参加くださいました。應典院、そして應典院寺町倶楽部の「これから」にたくさんのよびかけをいただいた約一月間をふりかえってみました。



４月２８日
應典院デビューのつどい

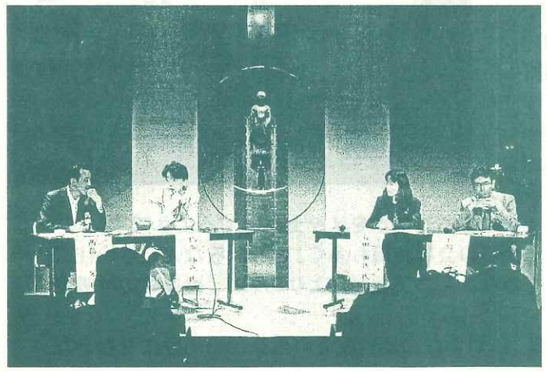
應典院プロジェクト応援団、ＮＧＯ関係者、杉本孝夫天王寺区長はじめ、行政や企業からもさまざまな分野の方々が参加くださった「應典院デビューのつどい」。トークセッション「超・寺町の発信するものー都市・メディア・ＮＧＯ」では、文化の発信拠点としての應典院や應典院寺町倶楽部のこれからについて、ゲストの方々と語らいました。

ゲストは、應典院プロジェクト応援団のメンバーでもある、京都精華大学助教授・橋爪紳也さん、関西国際交流団体協議会事務局長・有田典代さん、文化科学研究所常務取締役・校條諭さんの三氏。

應典院は心棒
～輪投げ屋さんである
（校條）

今の社会には一人の人が所属する「輪」がたくさんある。会社だけという人もいるが、関心、趣味、イデオロギーなどがそれ。そしてこの輪がこれからの日本社会を支えていくとも思うが、これらを繋ぐ心棒の部分が大事になってくる。心棒とは物理的に体が集まる場、全人格的につき合う場とも言え、そこではテーマや関心で結びつくのではない、新しいつき合いが始まるかもしれない。

そういう意味で興味本位の輪とそれを繋ぐ心棒という輪投げのモデルを考え、應典院は心棒に当たる輪投げ屋さんであるという期待を持っている。



また、この場が発信性を持っていくために、イベントも必要だが、プロの公演や展示だけでなく、普通の人の場でもあって欲しい。

つながりを活かす場に
（有田）

「気づき・学び・遊び」というコンセプトに加えて「救い」を大切にして欲しい。救いを求めている人にとって、最近の寺は敷居が高くなっている。そして、救いからもう一歩進んで、悩みを持った人同士が集うことによって社会の問題に気づくという「つながりを活かす場」に應典院がなれば。

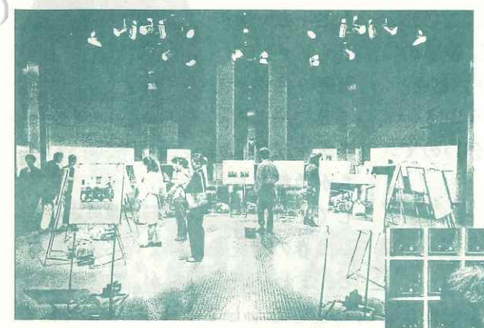
上町台地が５世紀から日本の歴史、文化、国際交流の中心であったというロケーションの意味は重要。寺町が一体となって発信していくところの心棒に、應典院はなってほしい。例えば、宗派を越えてアジアのさまざまな仏教の祭典をするとか。また、大きなイベントも必要だが、日常的に誰でも集まることのできる小さな場づくりも必要と思う。

ふらふらした心棒で
あって欲しい
（橋爪）

「超・寺町」というのは、これまでの寺町を超えるという意味ではない。数多くの寺町を抱えた大阪という都市が、そこからどんどん情報発信していくことが、大阪の魅力につながっていくのではないか。應典院という市民に開かれた新しい都市型寺院の試みが、そのきっかけになるのではと協力してきた。

心棒ということについていうと、應典院はふらふらした心棒であって欲しい。あまりにもしっかりした心棒になりすぎて、気づかせよう、学ばせよう、遊ばせよう、何か教えてやろうという場であってはいけないのでは。應典院を、いろいろな思いを持った人が集まり、何かが生まれる場とすれば、しっかりした心棒というのは要らない。

また、應典院という「場」、應典院プロジェクトという宗教を超えたさまざまなことをする「活動体」、應典院寺町倶楽部という人の「ネットワーク」がうまく別の動きをすればいいと思う。ここから飛び出していくことや活動をいくつつくれたかということが本来の情報発信ではないかと肝に銘じていきたい。





５月３日～17日
橋口譲二写真展
「職 1991～1995 WORK」

５月３日から１７日までの１５日間、應典院落慶記念イベントとして橋口譲二さんの写真展「職 1991～1995 WORK」を開催しました。入場者は1500人にのぼり、名古屋や広島からの熱心な橋口ファン、写真を学ぶ若者、お墓参りの老夫婦、近所の商店街のおじさん……さまざまな方々に来場いただきました。橋口さんはほぼ全期間、会場に滞在し、来場した人たちとのふれあいを大切にされました。また、受付・会場係は、大阪芸術大学写真学科の学生と應典院寺町倶楽部会員ボランティアが担当しました。

期間中に行ったトークライブＰＡＲＴ１「ひとつの〈職〉にたずさわる人々との語らい」（７日～10日）、ＰＡＲＴ２「〈職〉を通じて、日本と日本人を考える」（16日）も多くの方々に参加いただきました。特に、16日のルポライター鎌田慧さんとのトークは100人を越える参加者で、会場の２階気づきの広場があふれて、急遽１階ロビーでもビデオ中継を行うほどでした。いずれのトークでも、ホスト役の橋口さんの、出会いを大切にしたヒューマンな語り口が印象的でした。秋田光彦・應典院住職も「橋口さんの全身から伝わる『だいじなものに気づくため、ぼくたちは勇気をふるって立ち止まる』という静かなメッセージを、来場者ひとりひとりがしっかりと受け止めてくれたのではないでしょうか」。

ロビーに設置した雑記ノートに記された来場者の声を一部紹介します。

◆仕事＝夢でも、仕事＝お金でもなくて、どう人と向き合っていったらいいんだろう、そんなことをキャリア30～ 50年の人たちの写真を見ながら、ずっと問いかけていました。（彩）

◆橋口さんの「ものを見るフレーム」の暖かさ、素朴さに表現の豊かさを感じます。結局大切なのは、いきいきとした生き方と血のかよった言葉、このふたつでしょう。写真集の表紙のバスガイドさんの言葉は素敵です。（白川）

◆いろんな仕事があって、いろんな人がいて、結局自分もふりかえることができるんですね。（中略）
これから「職」について、誇りや生きがいが持てるような、自分でありたいし、世の中になってほしいと思いました。（なえ）

VOICE

春の講座受講のふたりの会員に聞きました。

應典院と應典院寺町倶楽部が本格的にスタートして約２ヶ月。春の講座、トークサロン、寺子屋トークなど、会員のみなさんが、應典院にお越しになる機会も多くなりました。

そこで、春の講座を受講されている笹川景好さん（53歳）と、阿部篤子さん（50歳）に、應典院を知ったきっかけ、今のお気持ちなどをうかがいました。

●

應典院は希望が見つかる場所

── 最初に應典院を知ったきっかけは？

笹川　３月の半ばくらいに應典院の記事を新聞で読んだんです。

阿部　私も新聞を読んで。２月の中頃だったかな。

── 應典院、また秋田住職についてどういう印象を持たれましたか？

阿部　私は記事を読んで、興味を持ってすぐにこちらにうかがったんです。私は耳に障害があって電話が使えないので、来た方が早いと思って。そして、秋田さんとみどりさん（秋田夫人）とお話をして、應典院と何らかのかたちで関わり合いを持ちたいと思いました。何か私でもできることがあるんじゃないかしらという希望が見つかったような気持ちでした。

笹川　秋田さんに会うまでは、思いきったことをするなぁ、ほんとうにそんなことができるの？と思ってたんです。私は人と話をするときにその人の目を見て話すんですが、秋田さんの目を見たとき、何か、あたたかさが伝わってきたんです。眼力があるっていうのかしら。これまでも何回か、お寺の住職さんとお話したりしたことはありますが、お坊さんといえば、頭がかたいというイメージがあって、なかなか本音でものが言えなかったんです。でも、ここに来て秋田さんとお話をして、普通のお寺とは違うんだなと思いました。秋田さんは、肩書きとかそういうものなしで、人としておつき合いのできる人だと思いました。

いろんな人のコミュニケーションの場に

── 應典院はどうあってほしいと思いますか？

阿部　私は、障害を持ってからひがみっぽくなってたところがあって、人に会うのが嫌で外へ出なかったんです。ここへ来てたくさんの人、いろんな人に会うでしょ。そのことによって、私自身変わったなって思います。これまで人と会話をするのは疲れることだったんだけど、すごく新鮮で楽しいという気持ちの方が大きいですね。ここへ来て、よかったなって思うんです。同じように、この場所に関わる人たちが、こんな気持ちを持てるような場所であったらいいな。



阿部篤子さん

笹川　そうですよね。私は、ここでいろんな人たちと接することによって何かを見つけられそうという期待があります。何か目的を持って来るのではなくて、ここで目的を見つける。自分の可能性に期待できるようになれる場所になったらいいんじゃないかしら。

阿部　実際、ここに来るとスタッフの人たちが気軽に応対してくれるし、私は春の講座を受けているんですけど、まわりの人たちが、みんなほんとうによくしてくれる。今まではたくさんの人の中で話をすると、何を言われているのかわからなくて、自分が思っていることをうまく人に伝えられなかったんですけど、少しずつ自分の言葉で話せるようにがんばりたいですね。



笹川景好さん

笹川　障害を持っている持っていないにかかわらず、いろんな人のコミュニケーションの場、みんなの社交場にもなればいいと思います。そして、阿部さんのように人と話すことに慣れていない人たちが、人間を知る場、話しやすい場、そして自分の表現ができる場を一緒につくっていきたいです。

阿部　そう、特に何かについての話じゃなくて、とりとめのないおしゃべりの中で、何かを見つけて帰りたいですね。

自分自身で何かを見つけたい

── ところで、お二人とも春の講座を受けていらっしゃいますよね。その感想を聞かせてください。

笹川　私は「コミュニケーション学入門」ですが、まず楽しい。講師の先生から、直に伝わってくる空気がいいですね。いろいろなことを乗り越えてできた今の自分、そういう自分を出していこうという気持ちになります。そして、講座を受けて、感動する心を持って帰りたい。それは感動するものを誰かにつくってほしいというのではなく、自分自身の中で見つけるということです。これから自分を開発していくいい勉強の場だと思います。

阿部　私は「コミュニケーション学入門」と「ホームパーティー」の２講座。何でもかんでも聞きたい、知りたいという気持ちです。教えられることばかりで、ドキドキです。誰かまたいい人に会えるかなっていう期待で、毎回ワクワクしてるんです。（パドマ）幼稚園のお母さん方もたくさんいらっしゃってますが、お互いにいい影響を受けあえたらいいと思います。

── 初イベントの橋口譲二写真展をご覧いただいてどうでしたか？

阿部　作品の写真を見て、最初はどうしてこの写真が？って思いました。でも、じーっと写真を見つめてると、影の人に光をあてるという、橋口先生の優しさが出ていると思いました。橋口先生にお会いしたとき、何かどこかで会ったことがあるような、優しい、心を許せそうな印象も持ちました。

私は写真展のお手伝いをさせてもらったんです。今まで家にずっといたから、用事で外に出ると疲れてたんだけど、ここに来ると疲れないんです。心にはりがでるんでしょうね。

笹川　改めて、生きることについて考えさせられました。こんなにも大勢の人々に支えられて生きているんだ、甘えちゃいけない、自分で生きていかないと、一歩一歩、歩いていくんだって思いました。そして、家族、まわりの人の愛を感じました。まわりの人の愛で、人は生きていけるんだってことがわかったような気がしました。

阿部　そう、私もそう思いました。一人じゃない、みんなで生きていると思います。

このページでは、会員のみなさんの声をお届けします。ご意見、ご感想などなんでも結構です。どしどし事務局までご連絡ください。

Q&A 應典院の施設利用のご案内

應典院落慶から２ヶ月近くが過ぎ、会員のみなさんにもさまざまな形で應典院の施設を利用していただいています。これからも、どんどん活用していただければと願い、施設利用についてＱ＆Ａでご紹介します。

Q. 施設利用料はいくらですか？

Ａ. いきなり現実的な質問ですが、施設を利用するにあたっては、時間区分に応じて費用を頂戴しています。なるべくみなさんに使っていただけるよう、公立のホール並の使用料に抑えてあります。本堂ホール、研修室Ａ・Ｂそれぞれの使用料は下記の通りです。

研修室Ａ…午前　4,000円
　　午後　6,400円
　　夜間　6,400円
　　全日　13,400円
研修室Ｂ…午前　5,000円
　　午後　8,000円
　　夜間　8,000円
　　全日　16,800円
本堂ホール
①土日祝…午前　18,000円
　　午後　18,000円
　　夜間　30,000円
　　全日　60,000円
②平　日…午前　15,000円
　　午後　15,000円
　　夜間　25,000円
　　全日　50,000円

もちろん、会員のみなさんには割引制度があって、上記金額の３割引でご利用いただけます。なお、照明、音響、舞台などの備品を使用する場合は別途料金が必要ですのでご照会ください。

Q. 両研修室、本堂ホールの定員は何名ですか？

Ａ. 研修室Ａは机10台、椅子30脚、Ｂは机12台、椅子36脚、本堂ホールは椅子100脚を完備していますので、椅子の脚数を定員と考えています。ただ、床に直接座って利用する場合などは、もちろん定員以上の収容も可能です。

Q. 施設を利用するには、どうすればいいんですか？

Ａ. 應典院（電話番号は寺町倶楽部事務局と同じ）にお電話で、まずは空き状況を確認してください。その後、ぜひ一度実際の施設をご覧ください。具体的な相談をさせていただきます。

Q. 会員が利用する場合、お手伝いしてくれるんですか？

Ａ. 基本的には、会員さん自身が作り上げていただくことを原則にしています。施設を利用していただく方には、設営から撤収まですべて自分自身で行っていただき、元の状態に戻した上で退出していただくようにお願いしています。

ただし、催しの主旨が社会的に意義深いものであったり、應典院、また寺町倶楽部で賛同できる催しであるならば、さまざまな形でフォローをすることは可能です。

── この他にもさまざまな質問がありますが、続きは次号にてお知らせします。



南の国フェスティバル

お寺が、バングラデシュひろばに変わるよ！ ひやかし大歓迎！

シャプラニール25周年全国キャラバン・関西のつどい
應典院寺町倶楽部協力事業

「南」の国の人々の生活向上に草の根の立場から協力するために、1972年に設立された、海外協力団体「シャプラニール＝市民による国際協力」の全国キャラバンが、應典院にやってきます。バングラデシュひろばに変身した應典院で体験する身近な国際協力ー見る・聞く・味わう・装う、そしてダンス。初夏の一日、わたしたちのこころが、バングラデシュの村人たちとつながります。

PART1　バングラデシュひろば
12:00～14:00

ミニ・バザール
- ◆チャイをどうぞ
- ◆バングラデシュ・カレーを味わってみませんか（有料）
- ◆バングラデシュの手工芸品で国際協力できますよ
- ◆バングラデシュの写真・絵画展

ワークショップ
- ◆華やかな民族衣装サリーを着てみましょう（有料）
- ◆シャプラニールの識字学級を体験しよう（定員あり）
- ◆写真を通してアジアと出会おう（定員あり）

PART2　トーク＆ダンス
14:00～16:30

◇バングラデシュのお話し
◇インド古典舞踊
「バラナ・ナティヤム」

1997年6月22日(日)
12:00～16:30

入場料
PART1 バングラデシュひろば
200円(チャイ付)
PART1＋PART2(トーク＆ダンス)
1000円

問い合わせ
TEL 06-774-0113　アーユス関西

イベントニュース

第3回寺子屋トーク

宗教人類学者・上田紀行 来講決定！

癒しの時代をひらく ～私の中の私～

人はなぜ癒されたいのでしょうか。超システム社会の影で、わたしの「かけがえなさ」が失われていく。自己の全体性を回復するため、世界の中心を探す、さまざまな旅。

宗教、セラピー、セックス……「癒し」をめぐる現象の意味と危険性を解明しながら、より大きな可能性を切りひらく。東京から気鋭の研究者・上田紀行さんを招いて、繰り広げる白熱のトークセッションです。

7月14日(月)
19:00 START

1部　講　演
「癒しの時代をひらく」

2部　トークセッション
上田紀行
竹嶋克之（新宗連青年会事務局長）
秋田光彦（應典院住職）

会費　1,000円（会員500円）
※閉会後、簡単な交流会もあります
（参加費1,000円）

申込　定員100名まで、電話予約で受付けます(TEL 06-771-7641)。

主催　應典院寺町倶楽部／新宗連青年会

協力　教化情報センター21の会
LAPNET大阪



'58年東京生まれ。スリランカでの宗教、医療人類学的研究のほか「癒し」の視点から現代社会の諸問題にも積極的に発言。テレビなどのメディアでも活躍する。愛媛大学助教授を経て、現在東京工業大学大学院助教授。主著に『覚醒のネットワーク』『宗教クライシス』『癒しの時代をひらく』他。

EVENT REPORT

いよいよスタート！ 應典院落慶式

去る4月29日、いよいよ應典院が落成の日を迎えました。

当日、朝8時からは220ヶ寺のご住職にご随喜、ご回向いただきました。10時からは庭儀式。稚児194名を含む、400名を超える行列が松屋町筋を練り歩く様は圧巻でした。11時からは、本堂にて落慶法要。79名の参詣者をお迎えし、厳粛な雰囲気の中、執り行われました。

今後は、社会に開かれた寺院を目指し、今までの伝統や概念にとらわれることなく、さまざまな活動に取り組んでいきます。寺町倶楽部同様、会員のみなさんのご支援をお願いします。

I'm OK! You'er OK! 第1回寺子屋トーク

シリーズ講座「寺子屋トーク」がいよいよスタート。第1回目を去る5月22日に開催しました。

講師は、開発教育の第一人者の大阪YWCAの金香百合さん。今話題の、EQ(こころの知能指数)をテーマに、あたまとこころのバランスのよい子育ての秘訣をご講演いただきました。子育て真っ最中の若いお母さんを中心に、聴講者は56名。

今の自分でいいんだ、同じように今のあなた（子ども）でいいんだ。あるがままの自分を、自分をとりまく人々を受け入れていく。そんなあたりまえのことを日々の生活の中で忘れがちだったことを、今回のトークで気づかせてもらえた気がします。

1500人の入場 橋口譲二写真展、盛況

5月3日から17日までの2週間、「橋口譲二写真展・職」を開催。期間中、1500名の入場者で賑わいました。

5夜にわたるトークライブは毎回盛況で、とくに16日の鎌田慧さん(ルポライター)をお招きした日には、会場に入りきれない方がでるほどの盛況ぶり。NHKの生放送もありと、スタートを飾るすばらしいイベントとなりました。

春の講座 3教室が順調にスタート

5月下旬より、應典院春講座3教室が始まりました。

5月21日からは「在住外国人ママに聞く」。第1回目はペルーの滝川ジェシカさんをお迎えし、10名の参加者のみなさんと楽しく話し合いながら、ペルーでの子育てに対しての考えを学びました。

23日からは「ホームパーティの達人」。ホームパーティに関する知識だけでなく、料理、飲み物などを通してのコミュニケーションについても学びます。参加30名のみなさんの交流の輪が広がることでしょう。

27日から始まったのは「コミュニケーション学入門」。ワークショップ中心の講座で、家族から人間関係を見直すことを学びます。参加者16名。

寄　贈

橋口譲二さんより、写真額合計60点をご寄贈いただきました。これからの活動に活用させていただきます。ありがとうございました。また、橋口さんの所属事務所「ミトローパ」様には、特別会員として今

NGO大学10周年記念イベント

関西NGO協議会が主催する「NGO大学」の10周年記念イベント(應典院寺町倶楽部協力事業)が、5月17日、18日の両日、開催されました。NGO大学を修了した若者たち約70名がつどい、これからのNGO大学のあり方について語り合いました。

1日目は午後6時30分の開会から、夜遅くまでの交流会。2日目は午前9時から、ラウンドトーク、グループディスカッションなどがあり、午後3時に閉会。NGO大学のことだけでなく、自分自身が今かかわっているボランティアのことなどについて、真剣に討論し、考え合う姿が印象的でした。

【應典院寺町倶楽部　新入会員ご紹介】(1997年6月10日まで)

4月16日以後にご入会いただいた方々です。ここにご芳名を掲げ、謝意を表します。ありがとうございました。

○一般会員

【東京都】
世田谷区
柳田　知子
町田市
茂田　真澄
【神奈川県】
横浜市金沢区
校條　論
【愛知県】
西尾市
石川　一郎
豊田市
水谷　浩志
【大阪府】
大阪市北区
伊藤嘉奈子
坂和　章平
近藤　ルミ
大阪市都島区
黒松　典子
大阪市旭区
餘吾　康雄
中瀬みどり
大阪市城東区
入江　克己
大阪市中央区
荒木　和子
大槻久実子
金下　玲子
田中　満
二階堂智子
西林　美久
春田珠英瑠
大阪市天王寺区
足高　潤
葭間　弘淳
射手矢千鶴
木下　高行
佐藤　昌宏
田中　多津
中江　康樹
西村　芳澄
林　久恵
増田美佐子
大阪市生野区
野原智江子
金　能祐
中川幼稚園
松倉　敏子
大阪市阿倍野区
笹島　京子
橋本　和哉
安田智栄美
大阪市西区
川口　圭子
三原　敏彰
大阪市福島区
森田　貞子
大阪市此花区
泊　麻利
大阪市浪速区
近藤　正孝
大阪市住吉区
伊藤　温子
駒井　勝治
福井　洋一
大阪市住之江区
北村　清子
西園　健二
豊中市
荒川佳代子
塩本　妙子
池田市
松尾　光明
茨木市
添野　智譲
田中　綾子
高槻市
鎌田　榮吉
守口市
岡本　佳子
寝屋川市
田見　幸子
大東市
宮本　孝志
東大阪市
北　達一郎
熊田佐栄子
笹　エリ
三久保克代
松原市
吉川　肇
八尾市
笹川　景好
柏原市
西村　貞野
服部　君恵
藤井寺市
髙島　忠男
吉田　清一
富田林市
芝　早智
堺市
加藤　浩司
島野亜由美
馬場　英子
和泉市
新井久美子
泉大津市
石原　成昭
【京都府】
京都市左京区
椿　久次
京都市伏見区
㈱白馬社
京都市右京区
藤澤　貴江
宮津市
金下　夏子
【奈良県】
奈良市
雨森　孝悦
生駒市
井田八百子
御所市
三山　正成
【兵庫県】
神戸市東灘区
吉水　幸也
伊丹市
増田美代子
宝塚市
坂田　明道
川辺郡
香西　生子
【愛媛県】
今治市
児島　妙心
【三重県】
名張市
深山なお子
【滋賀県】
甲賀郡
眞泉　善章
【和歌山県】
西牟婁郡
玉井　又次

○学生会員

【大阪府】
大阪市阿倍野区
笹嶋　瑞奈
八尾市
三好　宏明
【兵庫県】
伊丹市
増田　光洋

○賛助会員

【大阪府】
大阪市北区
梶原　時
堺市
関本　桂三
【兵庫県】
神戸市垂水区
中谷　加代

○法人会員

【東京都】
港区
日本学習図書㈱
【大阪府】
大阪市北区
河佐　浩
大阪市天王寺区
㈱ジャパンプロモーション
光　聖　寺
堺市
赤尾　整志
【京都府】
京都市左京区
法　然　院

以上98名

現在273名